

エネルギー \ 職場



①非住宅への断熱・気密やオフグリッドの導入に力を入れる建築工業の梅本主任(左)と加藤さん ②9月5日にイベントを開催する建築工業の新社屋「木KEYP | us」=いずれも恵那市長

恵那の金子建築



「トは「曇り」と雨が3日間続くと(電力が)ギリギリになる。ただ、年間では賄える計算」と話す。

地域の木材を活用し、夏は涼しく、冬は暖かく過ごせる断熱・気密の建築に強

格高騰や停電などに左右されずに継続できる利点
金子建築工業
指して9月5日
来場者は住まい
ナールやレザー
などで過ごし、
の技術を感じて
る。同社1級建
尚子主任(右)は
費エネルギーで
を実現できるこ
ほしい」と話し
は「キープラス
例となって(非
しいけば」

心肺蘇生中止時の対応は

中津川市西消防署 DNAR勉強会



119番後に指示書が見つかったケースを演劇形式で伝える消防署員ら=中津川市の阿木公民館で

中津川市西消防署は26日、終末期医療を受けている家族などが救急隊員の心肺蘇生を望まない場合の適切な対応を伝える「DNAR勉強会」を同市阿木の阿木公民館で開いた。

DNARは「Do Not Attempt Resuscitation(蘇生を試みない)」の頭文字。県などは、本人や家族が心停止時の心肺蘇生を望まない場合、かかりつ

け医に所定の「指示書」を作成してもらうよう促している。そうしたケースでは心停止したら医師を呼んでみとるのが適切だが、119番してしまった場合は救急隊員に指示書を示し、医師に確認が取れば心肺蘇生を中止させられる。

勉強会には、地域住民ら約40人が出席。119番後に指示書が見つかったケースを想定し、演劇形式で中

止までの流れを伝えた。講師を務めた救急救命士の高橋健太さんは、市内でもDNARのケースで救急隊が出動した例が2022〜24年に計10件あったと報告。「救急救命士の心肺蘇生の中止にはハードルがある。ぜひ人生の終わりの迎え方を家族で話し合う『人生会議』を開いて価値観を共有して」と呼びかけていた。(小佐野慧太)

異変共有して人命救助

多治見市 弁当宅配店に感謝状



感謝状を受け取る宮地店長(左)=多治見市役所で

高齢男性の異変に気づき人命救助につながったとして、多治見市は、高齢者を専門に弁当を届けるHOTTI O宅配クック123多治見

・可見店(同市明和町)に「孤立ゼロ/虐待死ゼロのまち協力隊感謝状を贈った。同店や市によると、6月13日午前、スタッフが昼の

美濃焼の新作ずらり技術と意気込み光る
土岐でコレクション
土岐市内の陶磁器メーカーが新作を展示する「美濃焼NEWコレクション」が27日、土岐市土岐津町高山のセラトピア土岐で始まった。28日まで。
市内各地域の陶磁器工業協同組合でつくる市陶磁器工業協同組合連絡協議会が

3台連携 逆走事故防ぐ

偶然通りがかった。初対面での機敏な連携に、柴田進治署長は「素晴らしい対応

☆可茂
(公設卸売)
2160 —
2808 2700 —
3240 —
2160 —
4800 3600